富山大学教育学部紀要 No.54：49－61（平成12年）

明治時代の師範学校への音楽教員の配置

－東京音楽学校卒業生の勤務校の調査から－

坂　本　麻実子

（1999年10月20日受理）

Music Teachers' Placement to Normal Schools in Meiji Period

－Referring to Workplace Survey to Tokyo Academy of Music Graduates

Mamiko SAKAMOTO
E-mail：msakamot@edu.toyama-u.ac.jp

キーワード：西洋音楽受容，音楽教育，音楽教員，東京音楽学校，師範学校

Key words：Introduction of Western Music, Music Education, Music Teachers, Tokyo Academy of Music, Normal School

はじめに

筆者は，無名の音楽教員たちの視点から近代日本音楽史を検証する試みを続けているが，教員の中でも，田山花袋の小説『田舎教師』の主人公のような音楽好きの代用教員にとって，師範学校，中学校，高等女学校で教える中等音楽教員は，羨望の的であったことから，今回は師範学校の音楽教員を取り上げる(1)。中等学校でも，中学校では，音楽教育は任意だったので，音楽教員を置かなくてもよかった。高等女学校は，音楽を必修にしたが，女子教育の不振から，音楽教員が各府県に配置され，音楽教育が軌道に乗るのは，明治32年(1899)の高等女学校令公布以後であった(2)。しかし，師範学校は，早くも明治５年(1872)の学制公布以後，教員養成を目的として各地で設置され始め，明治19年(1886)の師範学校令により，東京に中等教員を養成する高等師範学校，各府県に初等教員を養成する尋常師範学校を置くことになった。尋常師範学校は，明治30年(1897)の師範教育令により，師範学校と改称した。明治30年代以降，府県によっては，２校目の師範学校が開校し，あるいは師範学校女子部が女子師範学校として独立した。高等師範学校も，明治末年までに，東京に高等師範学校と女子高等師範学校，広島に高等師範学校，奈良に女子高等師範学校が設置された。こうして，各府県に１校以上設置された師範学校は，唱歌を必修とし，音楽教員を求めた。本稿は，師範学校への音楽教員の配置という観点から，明治時代，各府県下の師範学校に勤務した音楽教員を調査し，その結果をもとに西洋音楽の普及過程の一面を考察するものである。

明治時代の師範学校の音楽教員については，今日に至るまで調査されたことがなく，大方の教員たちは音楽史上では忘れられた。しかし，明治時代に設立された師範学校の多くは，国立大学教育学部として存続しているので，師範学校の音楽教員は，各大学の学校史の旧教員一覧表から判明すると考えたが，実際には簡単ではなかった。戦災や新制大学への移行に伴う混乱にも起因している

のだろうが，師範学校時代の旧教員一覧表が作成されていなかったり，あるいは見つからない場合があった。旧教員一覧表を入手できても，担当科目が記載されていないため，誰が音楽教員なのか，特定できない場合があった。旧教員一覧表に音楽教員の出身校まで記入されていることは稀であった。学校によって資料事情がまちまちなので，全国の師範学校に音楽教員を送り込んでいた東京音楽学校の側から調査を始めてみることにした。『東京音楽学校一覧』（明治22年度～45年度版。東京芸術大学附属図書館蔵。請求番号 377.1－O－1～5）の「卒業生姓名」欄には，卒業生の就職先が記載されているので，まず，東京音楽学校卒業生で師範学校に就職した者たちを確認した。次に，入手できた範囲内ではあるが，師範学校の旧教員一覧表によって，東京音楽学校卒の音楽教員と東京音楽学校卒以外の音楽教員を区別しながら，各校の音楽教員の変遷を跡づけた。旧教員一覧表が入手できない場合，市販の学校職員録（筆者は明治34年度版，35年度版，37年度版，39年度版，41年度版を参照できた）が，担当科目も記入されていて参考になった。

以上，『東京音楽学校一覧』，師範学校の旧教員一覧表，市販の学校職員録，以上3種類の資料を照合し，筆者の判断を加えて，明治時代の師範学校の音楽教員人事を復元した成果が，54頁から61頁までの「明治時代の師範学校音楽教員一覧表」（以下，「音楽教員一覧表」という）である。「音楽教員一覧表」の最後には，学校ごとに典拠資料をあげた。

明治5年の学制公布当時，唱歌は「当分之ヲ欠ク」という条文がつき，明治40年(1907)の小学校令改正の時まで随意科目であったことを考えれば，明治時代を通じて，師範学校が唱歌を必修とし，音楽教員を採用したことは注目してよい。そして，師範学校音楽教員の最大の供給源が東京音楽学校であった。本稿は，師範学校ごとに採用状況を述べることはしないが，師範学校と東京音楽学校の人的関係は，いつ頃から始まり，どのように展開していくのか，また，師範学校が東京音楽学校卒以外の音楽教員を採用する場合，その音楽教員はどのような出自なのかという観点から，音楽教員の配置を検討する。

1．音楽取調掛と師範学校

まず，東京音楽学校の前身で，明治12年(1879)に設立された音楽取調掛と師範学校の関係から検討しよう。音楽取調掛は翌13年から伝習生を募集するが，早くもその第1回生で，明治15年2月付けの「修業證状付與伝習生」である吉田キサが長崎師範で教えている。

音楽取調掛の伝習生は，履修の仕方によって，「全科卒業生」と「修業證状付與伝習生」の別があったが，地方の師範学校にとって，「修業證状付與伝習生」は即戦力になったようだ。

たとえば，埼玉師範の高橋成則は，明治7年(1874)の開学当初からの教員であった。洋学を学んでいたので，恐らくその点を買われ，音楽取調掛に派遣されたのだろう。そして，明治16年(1883)7月付けで修業證状付與伝習生になると，さっそく，10月から唱歌の授業を始めた。高橋の教え子である入江祝衛（明治15年入学，18年卒業）の回想によれば，オルガンは教師用に1台しかなかったので，入江ら生徒たちは箏で「ヒーヨー，ヒーイー，フームー」（現在の音名で言えば，ドファ，ドソ，レラ）と弾くことを教えられた。当時，師範学校の唱歌の授業は，県知事が視察するに値した。県知事が来校したとき，入江は，「春の弥生の曙に」（音楽取調掛が明治14年に編集した『小学唱歌集』初編の第15曲「春のやよひ」のこと。現在も「越天楽今様」というタイトルで小学校の歌唱教材である。）を，間違えて，箏の頭部ではなく尻の方で弾いていたが，県知事は気づかなかったという。こうして，箏を使って唱歌を指導した高橋は，明治31年に埼玉師範を退職し[3]，その後，埼玉女子師範の嘱託となった。ただし，明治30年代にはオルガンは普及しており，高橋は，埼玉女子師範では女子の伝統的な芸事である「箏曲」を担当した。

一方，音楽取調掛でも，明治17年(1884)から全国の府県庁に働きかけ，伝習生を派遣してもらった。その結果，翌18年7月付けの修業證状付與伝習生たちは，各地の師範学校に赴任し（青森，宮城，秋田，山形，栃木，埼玉，新潟，長野，石川，

岐阜，三重，滋賀，大阪，奈良，和歌山，徳島，愛媛，福岡，熊本)，唱歌のパイオニアになった。なかでも宮城県から派遣された四竈仁邇は，明治18年から44年まで宮城師範に在職して宮城音楽教育界の総帥となり，その後も非常勤で大正7年まで教壇に立った（『宮城師範学校同窓会名簿』)。

2．期待された東京音楽学校卒業生

音楽取調掛は，明治20年(1887)に東京音楽学校として開校した。東京音楽学校には，演奏家コースの専修部と音楽教員コースの師範部とがあった。師範部には，初等音楽教員養成課程と中等音楽教員養成過程の区別はなかった。むしろ，東京音楽学校は，明治27年(1894)に小学唱歌講習科を新設しており，中等教員の養成よりも初等教員の増産の方が先であったとみえる。また，専修部でも，教職科目を履修すれば，音楽教員資格を取得できた。師範学校は，専修部卒業生も師範部卒業生も採用している。

明治32年(1899)の学科改正で，専修部は本科（声楽部と器楽部と歌楽部）となる。師範部は中等教員養成課程の甲種師範科，初等教員養成課程の乙種師範科に分化する。以後，甲種師範科が，中等音楽教員養成の本道となるが，本科でも，師範部時代と同様，教職科目を履修し，中等音楽教員資格を取得できた。また，本科を卒業して研究科に進学すると，在学のまま，教壇に立つことができた。「音楽教員一覧表」を見ると，研究生が教えているのは，東京高等女子師範，埼玉師範，埼玉女子師範，神奈川女子師範で，やはり東京とその隣接県に限られている。その他，科目履修の選科の修了生も，師範学校に採用されている。ただし，選科では中等教員の免状は出ないので，滋賀師範や鳥取師範で教えた菊地盛太郎は，検定試験で中等教員資格を得ている（『音楽界』[4] 第1巻第8号「楽人動静」欄　50頁　明治41年8月)。

さて，「東京音楽学校卒」の肩書は，特に地方では重みがあったようである。たとえば，和歌山師範は，「音楽教員一覧表」を見ると，音楽取調掛時代の明治16年7月付けの修業證状付與伝習生である恒川鐐之助や金津鹿之助により音楽教育を始めたが，明治34年に東京音楽学校卒の教員の赴任が決まったとき，当時学生であった坂田冬太郎は，「恩師近森先生」と題して次のように回想している。

赴任されるに先って，こんな評判が伝った。「今度近森出来治という先生が此方へお出でに成る。先生は音楽学校を優等で卒業され（筆者注．東京音楽学校師範部明治30年卒)，中々出来る人であるが，和歌山市の音楽界を振はす為めに特に選抜されて此方へ来られるのである。」といふのであった。果して先生は其の期待に反かなかった[5]。

こうして，東京音楽学校卒業生は各地で期待され，明治30年代前半までには，東京音楽学校卒の音楽教員が一度も赴任していない府県はなくなった。

ところで，東京音楽学校は，師範部から甲種師範科への改組を機に，オルガンだけでなくピアノもカリキュラムに取り入れた。ピアノが弾けることは，明治後期音楽教育界では，言わば最先端技術であった。たとえば，明治36年の甲種師範科第2回卒業生で，茨城女子師範に赴任した牛尾（旧姓岩堀）源は，次のように回想している。

その当時はオルガンだけで，幾度か県庁に嘆願しましてやっとピアノを購入して頂きました処，それが大評判になりまして県下の先生方がかわるがわる見学に見えられ，みなその音色のすばらしさに驚嘆され，そして羨望されたのを覚えております[6]。

甲種師範科は，明治35年から45年まで，男性64名，女性129名，合計193名の卒業生を出した（『東京音楽学校一覧』)。今日の音楽教員養成系の学科同様，女性優勢であるが，高等女学校は女性を採用し（注2前掲論文参照)，師範学校は男性を採用する傾向がある。ただし，師範学校女子部の担当として女性を採用する場合がある。ちなみに，東京府では，師範学校と高等師範学校の音楽教員は，男性である。それに対して，女子師範学校と高等女子師範学校の音楽教員は，男性も女性

もいる。なお，女子師範の教員は，府立第二高等女学校も兼務した。東京府の師範諸学校のような男女教員の棲み分けは，各府県の師範学校でも見られる。

3．東京音楽学校卒以外の音楽教員たち

男女の別はあれ，東京府では，師範学校，女子師範学校，高等師範学校，女子高等師範学校とすべての師範学校が，東京音楽学校卒業生を採用した。しかし，地方の師範学校では，東京音楽学校卒業生を採用したくても，なかなか来てくれなかったり，採用しても短期間で異動されてしまうことがあった。それで，地方の師範学校では，東京音楽学校卒以外の音楽教員たちが少なからぬ戦力になっていた。「音楽教員一覧表」では，東京音楽学校卒以外の音楽教員は，[] を付けて示した。今回，調査した範囲では，東京音楽学校卒業生以外の音楽担当教員は，①東京音楽学校中退者，②東京女子高等師範学校卒業生，③その他，に分類できる。

①東京音楽学校中退者

『東京音楽学校一覧』には「生徒姓名」欄があって，在学生名簿を掲載している。実は，師範部でも専修部でも，本科でも師範科でも，各学年で毎年のように中退者が出ている。科目履修の選科でも，1～2年在籍して退校する者がいる。中退には，いろいろな理由があるだろうが，卒業あるいは修了証書をもらわずに師範学校に就職した者たちがいる。こうした中退者について，『東京音楽学校一覧』で確認できる在学年と，勤務校を次に示す。

宮島慎三郎	明治22年専修部2年→長野，山形師範
石川清信	明治24年専修部3年→山形，沖縄師範
植松延毘	明治30年師範部1年→山梨師範
植村クニ	明治31,32年選科→長岡女子師範
香川実	明治31,32年選科→三重師範
村上一郎	明治32年選科→福岡師範，三重師範
澤田一郎	明治31,32年選科→福岡女子師範，三重女子師範
島長代	明治31年仮入学。32,33年選科→宮崎師範
青木兒	明治34年声楽部2年，35年選科(唱歌，オルガン)→新潟師範
小林禮	明治35年器楽部2年→山梨師範
平川千代	明治36年甲種師範科3年→島根女子師範

東京音楽学校を中退すれば，もちろん無資格であるが，先に就職口を確保し，勤務しながら検定試験を受けて中等音楽教員資格を取ることも可能だった。たとえば，三重師範の村上一郎は，東京音楽学校選科に1年間在籍し，三重師範在職中の明治43年に検定合格している（『三重県師範学校一覧』明治43年度版）。

②東京女子高等師範学校卒業生

東京女子高等師範学校は，女性中等教員を養成するが，音楽教員の免許状は出さない。しかし，次に示すように，女高師卒の女性教員（女高師の卒業年と学科は『桜蔭会名簿』1990年版による）は，師範学校に音楽の専任教員がいないとき，自分が専門にする科目に加えて音楽も担当させられた。

常川とよ	明治38年技芸科卒。千葉女子師範　図画，家事，音楽担当。
大村よね	明治34年高等師範科卒。静岡師範。修身，歴史，唱歌，遊戯担当。
橋本ひさし	明治36年文科卒。明石女子師範。日本史，地理，習字，唱歌，体操担当。
宮村じゅん	明治34年国語漢文専修科卒。島根女子師範。国語，漢文，音楽担当。
近藤まさ	明治40年技芸科卒。島根女子師範。家事，裁縫，音楽

担当。

丸岡増　明治34年高等師範科卒。
岡山女子師範。国語，音楽担当。

赤堀静　明治36年技芸科卒。
広島師範。音楽，裁縫，家事担当。

以上の女高師卒業生に音楽を指導したのは，「音楽教員一覧表」に示すように，東京音楽学校卒の教員たちである。

③その他

①と②以外では，次の3名の経歴のみ判明した。

三浦波治　岩手師範。私立の東京音楽院卒（『岩手県師範学校一覧』）。明治41年に中等教員免状取得。（『音楽界』第1巻第8号「楽人動静」欄　50頁　明治41年8月）

武内岩尾　滋賀師範。滋賀県師範学校卒。母校に採用。（『滋賀県師範学校創立六十年史』）

奥山朝恭　岡山師範。明治16年から20年まで音楽取調掛勤務[7]。

師範学校では，私立音楽学校卒業生や師範学校卒業生も採用されることがあった。ただし，三浦の母校の東京音楽院も，学監の天谷秀が東京音楽学校専修部明治30年卒であるのを始め，教授陣は東京音楽学校関係者で占められる（『中等諸学校職員録』明治41年版）。また，奥山のように音楽取調掛職員から師範学校教員に転出するというケースもあった。なお，唱歌「桜井の別れ」（青葉茂れる桜井の）は奥山の作曲である。

むすびに.

音声メディアが未発達の時代には，音楽は，人間の移動とともに伝播する。制度上は明治40年まで，小学校の唱歌は随意科目であったにもかかわらず，師範学校は，地域における西洋音楽振興の拠点となり，師範学校の音楽教員は，西洋音楽の伝道師として赴任し，歌や楽器の演奏技術を教授した。その結果，師範学校を卒業し，東京音楽学校に進学する者も出た[8]。ただし，師範学校の音楽教員は，その前身の音楽取調掛を含め，東京音楽学校で訓練を受けた者が主流で，東京音楽学校なら，卒業生は学科を問わず師範学校に迎えられ，中退者でも採用された。地方の師範学校には，私立の音楽学校出身や師範学校，女子高等師範学校出身の音楽教員もいたが，やはり東京音楽学校卒以外の音楽教員は非主流であったし，彼らが学んだ学校もまた，東京音楽学校卒の音楽教員が教えているのである。明治時代の師範学校の音楽教員の変遷は，東京音楽学校流の西洋音楽の伝道師たちの布教活動の軌跡といってよいだろう。

注.

（1）拙稿①「『田舎教師』のモデルにみる明治30年代の西洋音楽受容」『人間文化研究年報』第13号　1990年3月　13－25頁
拙稿②「代用音楽教員の領域－『田舎教師』からの近代音楽史展望－」『人間文化研究年報』第19号　1996年3月　9－15頁
拙稿③「明治青年の立志と西洋音楽－『田舎教師』とその時代－」『桐朋学園大学研究紀要』第25集　1999年11月掲載予定，印刷中

（2）拙稿④「明治時代の公立高等女学校への音楽教員の配置－東京音楽学校卒業生の勤務校の調査から－」『富山大学教育学部紀要』第53集　1999年2月　45－55頁

（3）百年史編集委員会編『百年史　埼玉大学教育学部』百年史刊行会　浦和　1976年　39，72，416頁

（4）本稿では『音楽界』は復刻版（大空社　東京　1995年）を使用する。

（5）和歌山大学教育学部編，発行『100年のあしあと』和歌山　1975年　24頁

（6）樫村勝『茨城女子教育百年の歩み』川田プリント　水戸　1976年　166頁

（7）奥山朝恭については，『東京芸術大学百年史　東京音楽学校篇』第1巻（音楽之友社　東京　1987年　269頁）に経歴があるが，音

楽取調掛退職後の活動は詳しく伝えていない。

（８）たとえば，秋田県師範学校編，発行『創立六十年』（1933年／1981年復刻　東京　第一書房）には，「上級学校入学者一覧」という項目がある。それによれば，明治時代，秋田県師範学校からは，九島和三郎（明治32年卒），田口隆二（明治33年卒），小田島豊治（明治34年卒）が東京音楽学校甲種師範科に進学した。大正時代になると，成田為三（大正２年卒），黒沢隆朝（大正５年卒）らが続く。706－711頁

明治時代の師範学校音楽教員一覧表

北　海　道

［北海道］

①北海道師範M19：専25成川熊雄25-29，師28玉川瓶也31～，甲42徳増春三42～，甲42工藤富次郎43-44

東　　北

［青森県］

①青森県師範Ｍ９：伝18-7傍島マネ◎22-24，取20山本生25，取20白井規矩郎26-27，師28林重浩(甚蔵)28-29，師26北村季晴30-31，師28林重浩(甚蔵)32-33，専22高木次雄34-37，甲38釜蕩善作◎38～

［岩手県］

①岩手県師範Ｍ９：伝16-7山内卯太郎◎22-26，取20白井規矩郎23-24，専22高木次雄25-33，師29黒部峯三34-35，専25成川熊雄36-40，[三浦波治41～]

［宮城県］

①宮城県師範Ｍ８：伝18-7四竈仁邇◎18-44，甲44古岩井久平44-45，甲45若狭萬次郎45

［秋田県］

①秋田県師範Ｍ６：[畑江ツナ19-21]，[京極シゲ20-?]，伝18-7半田左武郎◎21-33，専30神山末吉33-34，[澤保治郎35-44]，甲42釜蕩清蔵45

②秋山県女子師範M42：甲43園部チヨ◎43-45

［山形県］

①山形県師範M11：取20山本生21，伝18-7加藤精一郎◎21-24，取20松本長24，[石川清信◎26-33]，専30稲岡美賀雄34-37，甲38松本徳蔵38，師34新清次郎39，[宮島慎三郎40-44]，師32渡邊森蔵◎45～

②山形県女子師範M35：師26大畠(紺野)サダ36-41(兼山形高女)，舊甲37長澤光治◎39-41(兼山形高女)，専24石岡(小関)トク42(兼山形高女)，甲40山本さだ◎43-45～，甲44上村なつ◎44～

［福島県］

①福島県師範Ｍ７：師26清水(長尾)ヒデ26-27，取20山本生31，取20深澤登代吉32，28師吉田信太32休職，[渡邊貞雄33～]

関　　東

［茨城県］

①茨城県師範Ｍ９：専22鷹野国蔵22-25，取20深澤登代吉25-27，師24福長竹雄28-34，専29片岡亀雄35～

②茨城県女子師範M36：舊甲36岩堀(牛尾)源(兼水戸高女)36-40，師30石井(西川)シゲ◎41-44(兼水戸高女)，甲44菅原秀44～

［栃木県］

①栃木県師範Ｍ６：伝18-7加藤精一郎24-26，取20山本生26-29，師28河原林吉利30-33，専31栗本清夫34，師34山本恭三35-44(兼栃木女師)，甲43荒木栄次郎45～

②栃木県女子師範M37：甲38日下部千穂43-45

［群馬県］

①群馬県第一師範Ｍ７：取20内田粂太郎◎22-35，師28大塚(川口)ヲト35-41，取21岩城寛36-40，甲41大西正直41-44，甲41野口米次郎45～

②群馬県第二師範M45：甲45山本壽45

③群馬県女子師範M35：舊甲37遠藤(山口)とよ37，甲38増田(山本)とく38-40，甲41本多(小松)ひろ41-42，甲43大谷ハツエ43-44，舊甲37賣間(西川)きく45

［埼玉県］

①埼玉県師範M６：伝16-7高橋成則 6-29，伝18-7妹尾繁松◎18-19，取20深澤登代吉30-31，専32益山鎌吾32(研)，専31石野巍34-39(研)，甲39草川宣雄39-40，器41成澤潤蔵41～(41-42研)

②埼玉県女子師範M32(浦和高女と兼任)：専34安井(中村)コウ34(研)，伝16-7高橋成則(嘱託。箏曲担当)34-？，師24高木タケ35-36，専34天野(北村)ハツ37-38(研)，舊甲36牧野(堀江)◎むめ39-40，器41澤邊(落合)眞41-42(研)，甲43橋村その◎43～

［千葉県］

①千葉県師範M７：師28野村成仁29-32，専28前田久八33，師28河原林吉利34-37，甲38田口隆二38-40休職，舊甲37長谷部巳津次郎39-40，器36堤(山本)正夫41，甲39八木原道三42～

②千葉女子師範M37(千葉高女と兼任)：器37横山(陶)イト39，[宮武トラヨ(嘱託)39]，[常川とよ40]，伝18-7宮武唯輔41～

［東京府］

①青山師範M９：取20小山作之助22-24，専22山田源一郎◎25-27，専22小出雷吉28-39，甲39松岡保41～

②豊島師範M42：器36堤(山本)正夫42-45

③東京女子師範M33(府立第二高女と兼任)：専24丸山(小澤)トメ◎36～，声42大和田愛羅44～

④東京高等師範M19：取21鈴木米次郎24-36，専28田村虎蔵32～

⑤東京女子高等師範M23：取20林テフ◎23～，師28吉田信太33-34，専34中村(安井)コウ35-45(35-42研)，専34天野(北村)ハツ35-45(研)，専35三上タケ37(研)，専31安達カウ◎43～，甲41本多(小松)ひろ43-45(講師)

［神奈川県］

①神奈川県師範M９：伝16-7浦守謹吾22-24，取21鈴木米次郎22，取21小林錠之助23～，師28大塚(川口)ヲト31-34(附属小)

②神奈川県女子師範M40：甲39草川宣雄41-43，器41澤邊(落合)眞44

甲　信　越

［山梨県］

①山梨県師範M11：師22山田ヨネ23-25，師22下田(宗像)フサ25-27，専25中村(宮崎)テル27-29，専22鷹野国造29，取20山本生30-31，専30稲岡美賀雄31-33，[行方正彦34-35(嘱託)]，[植松延毟◎35-37(嘱託)]，器37横田三郎37-38，[小林禮41-43(嘱託)]，甲44伊達愛44～

［長野県］

①長野県師範M８：伝18-7加藤精一郎19-?，専24依田辨之助◎26-31，師26北村季晴32-33，伝18-7門奈クリ33-37，専24依田辨之助◎34，師29早川喜左衛門37(嘱託)，[宮島慎三郎◎37]，舊甲35福井直秋37-41，[藤沢清美41(嘱託)]，専30神山末吉42～

②松本女子師範M38：舊甲36豊島盈◎38-44(～40兼松本高女)，舊甲36井出茂太◎41～

［新潟県］

①新潟師範M９：伝18-7高田セン◎22-33，専26石原重雄26-29，専30神山末吉30，師31入江好治郎32-35，師30高井徳造36，[青木兒37(嘱託)]，甲38西村甫也38-40，甲38與田甚二郎41～

②高田師範M32：師30近森出来治33-34，専30神山末吉35-37，師29早川喜左衛門37-38，舊甲37渡邊彌蔵39-42，器37横田三郎43～

③長岡女子師範M32：[植村クニ(訓導兼嘱託)37，39]，[前田レン(嘱託)37]

北　　陸

［富山県］

①富山県師範M６：取20松本長23，取20深澤登代吉24，専22鷹野国蔵26-28，師29安田俊高29-32，師29島村吉門32-34，舊甲35福井直秋35-36，舊甲37杉江秀37-40，専30高塚鏗爾41～，甲43鈴木ミツ子43，甲44井上初枝44～

［石川県］
①石川県師範M７：伝18-7行山(林)スガ◎22-27，師26大畠(紺野)サダ26-33，師34新清次郎35-38，舊甲37村岡重任39-40，器41大西安世41～
［福井県］
①福井県師範M６：師30吉田恒三◎30-34，専32益山鎌吾35-38，甲39八木原道三41，器38安藤弘42-44

東　　海

［岐阜県］
①岐阜県師範M６：伝18-7亀井虎三郎(千尋)◎22-30，師30高井徳造31-33，[野田喜一郎34-41]，甲43竹澤貞次郎43-44，甲45林仙二45
②岐阜県女子師範M44：甲41松井あい◎44-45
［静岡県］
①静岡県師範M８：師22前川(内山)幸作23-28，専29永井幸次29-33，伝16-7戸城伝七郎33-?，[大村よね34，35，37]，[大橋純二郎34，35，37]，舊甲37内藤俊二37-42，甲40原田彦四郎44～
②静岡県女子師範M39：甲39平林たみ39-45
［愛知県］
①愛知県第一師範M９：取21岩城寛22-32，師29安田俊高33-45～，専25成川熊雄41，
②愛知県第二師範M36：専26石原重雄32-34，師24福長竹男35-40，専25成川熊雄42，師32鈴木毅一44～
③愛知県女子師範M34：器45吉田トキ45～

近　　畿

［三重県］
①三重県師範M34：伝18-7金津鹿之助◎19-23，伝18-7恒川鐐之助24-39，[香川実(嘱託)38-39]，[村上一郎39～]
②三重県女子師範M41：[香川実39]，[澤田一郎41]
［滋賀県］
①滋賀県師範M34：伝16-7太田政徳21-23，伝18-7門奈クリ22-24，師24福長竹男24-28，伝18-7野中武雄25-30，取20深澤登代吉28-30，師28今野大膳30-32，[澤保治郎33-35]，専35中村忠雄35-37，講32/選36-3(唱歌)菊地盛太郎37-39，舊甲37布村うた37-41(女子部)，[武内岩尾39～]
②滋賀県女子師範M41：舊甲36牧野(堀江)むめ42，甲38田淵はつ43～
［京都府］
①京都府師範M９：取20松本長10-22，師22酒井良忠◎12-26，師22楠美恩三郎26-35，師30吉田恒三35～
②京都府女子師範M41：舊甲35志水操◎42～
［大阪府］
①天王寺師範M８：伝18-7柴田鼎22-23，専25中嶋(多)梅稚25-33，[日賀田萬代吉(兼大阪女師)34～]
②池田師範M41：甲42工藤富次郎42，甲42釜萢清蔵43-44，甲41小部卯八45～
③大阪女子師範M33：甲40望月清40-41
［兵庫県］
①御影師範M11：[奥山朝恭21-25]，専26元橋義敦26-28，専28田村虎蔵29-31，専29米野鹿之助32～
②姫路師範M34：師34矢野盛雄34-40，42-44
③明石女子師範M36：[橋本ひさし37]，甲38澤田(高須)なを38-39，甲40田中(清水)寅之助40，甲41松井あい41-43，甲44川下秋44～
［奈良県］
①奈良県師範M21：伝18-7野中武雄21-24，専24依田辨之助25-26，[目賀田萬代吉26-34]，師30高井徳造34-36，選36-12(唱歌)吉田丞雄(兼奈良女師)36～
②奈良県女子師範M38：甲44安藤憲44～
③奈良女子高等師範M41：甲40田中(清水)寅之助42～，甲43宮内薫43～，声43幾尾純44-45(兼訓導)
［和歌山県］
①和歌山県師範M８：伝18-7恒川鐐之助22-24，伝18-7金津鹿之助25-34，師30近森出来治35-37，舊甲37南能衛38-40，舊甲37長澤光治42-45

中　　国

［鳥取県］

①鳥取県師範M19：専22小出雷吉22-27，師28立花季太郎30，専29片岡亀雄32，専29永井幸次◎34-37，専30神山末吉38-39，専29高橋二三四40-41，講32/選36-3(唱歌)菊地盛太郎41-?

［島根県］

①島根県師範M８：[風間金次23-30]，28師林甚蔵(重浩)30-31，師28今野大膳32，専25成川熊雄33-35，器36堤(山本)正夫36-37，甲38與田甚二郎38-40，甲41新谷八太郎41-42，甲43荒木栄次郎43-44，甲38君塚正志45

②島根県女子師範M36：[宮村じゅん37]，[平川千代39]，[近藤まさ41]，甲42窪田たか42-44，甲44天野ヨシ44-45

［岡山県］

①岡山県師範M７：伝16-7森岩太郎◎22，[奥山朝恭26-35]，専27高濱孝一36-39，師29早川喜左衛門39-41，甲38小笠原良造42～

②岡山県女子師範M36(岡山高女と兼務)：[山下寅吉35]，[丸岡増37]，舊甲37赤尾寅吉41～

［広島県］

①広島県師範M７：取20山本生32-33，35-37，[滝山コウ37]，器38成田蔵巳38-39，[井上トヨ39]，声38外山国彦41-42，[赤堀静41]，舊甲37渡邊彌蔵43～

②三原女子師範M42：甲43鈴木あや43，甲44山田(赤川)フミ44-45

③広島高等師範M35：師28吉田信太36～，舊甲35荒島(藤村)すゑ42，舊甲37内藤俊二43-45

［山口県］

①山口県師範M７：伝16-7高橋均15-27，取20倉知甲子太郎23-25，師26飯田三三雄26-27，専26元橋義敦29-31，[澤保治郎31-33]，[大橋純二郎32-33]，師29松山若拙34～

四　　国

［徳島県］

①徳島県師範M７：伝18-7妹尾繁松20-30，専28鈴木重太郎30-32，舊甲35甲斐(内藤)蝶35，[渡邊貞雄32-33]，舊甲36九島(松村)和三郎36-39，甲39大槻貞一39-44，甲43竹澤貞次郎45～

②徳島県女子師範M41：甲39小串信太郎(徳島中学教諭)41～

［香川県］

①香川県師範M22：師22楠美恩三郎23-25，取20松本長25-27，師28吉田信太28-31，師31川添安蔵32-45，声45中尾リヨウ◎45～

［愛媛県］

①愛媛県師範M９：伝18-7宮武唯輔19-30，専25成川熊雄30-32，専28鈴木重太郎33～

［高知県］

①高知県師範M７：伝16-7宇賀春樹◎22-26，伝18-7門奈クリ25-29，師30近森出来治◎30-32，師24福長竹男41～

九　　州

［福岡県］

①福岡師範M７：伝16-7甫守謹吾17-20，伝18-7庄野(三浦)五郎◎22-29，師29島村吉門◎30-31，[村上一郎35-39]，舊甲37松園郷美41～

②小倉師範M41：甲40栢森亨41-43，甲44山内常光44～

③福岡女子師範M36：[澤田一郎39]，甲40秋山升42～

［佐賀県］

①佐賀県師範：[宮野常吉22-24]，[金田留平24-35]，師29島村吉門35-40(兼佐賀県高女)，専32益山鎌吾40-45，甲45牧野一郎45～

［長崎県］

①長崎県師範M７：伝15-2吉田キサ22，選科修業証明書付与伝習生23-5松浦潔23-27，師28池上長廣28-32，専30高塚鏗爾33-39，師29島村吉門40～

②長崎県女子師範M41：甲41上野(前島)外喜尾41-42，甲43早川長43～
［熊本県］
①熊本県師範M11：伝18-7吉田元造(石川恒年)25-27，専27高濱孝一33-35，師31入江好治郎36-42，甲41野口米次郎41，甲42野口ちよ42-44，甲43長橋熊次郎43～，甲44猪瀬久三44-45
②熊本県女子師範M45：甲45牧原カツヱ45～
［大分県］
①大分県師範M 9 ：選科修業証明書付与伝習生23-5松浦潔35-?，舊甲37長谷部巳津次郎37-38，甲38小笠原良造41，甲44青木久44-45
②大分県女子師範M33：甲39鈴木善野41-42(兼大分高女)，甲44鹿野キヨ44～
［宮崎県］
①宮崎県師範M18：専26石原重雄30-31，師32鈴木毅一32-33，[島長代34-37]，[高橋延毘37-40]，甲40黒木寛◎40-44
［鹿児島県］
①鹿児島県師範M 8 ：取20山本生34，[佐藤茂助35，37]，舊甲37赤尾寅吉37-40，舊甲37村岡重任41-45，甲44中村鹿之助44-45，甲45原格太郎45

沖　　縄

［沖縄県］
①沖縄県師範M13：[石川清信33-43]，甲43園山民平44-45

そ の 他

①台湾師範：取21岩城寛33-34
②韓国漢城師範：専22小出雷吉40-45(講師)

備考：Mは明治。数字は明治の暦年をあらわす。
校名は明治45年当時のもの。校名の次に創立年を示す。
氏名は次のとおり。無印は東京音楽学校卒業又は修了の音楽教員。［　］つきは東京音楽学校卒業以外の音楽教員。ただし［　］と下線つきは，　東京音楽学校中退者。
氏名の次の数字は在職年。本籍のある府県に着任した場合には◎印を付す。
東京音楽学校卒業および修了学科は次のように略記する。
取：音楽取調掛全科卒業生。伝：音楽取調掛修業證状付与伝習生。
専：専修部。師：師範部。声：本科声楽部。器：本科器楽部
舊甲：師範部に入学，　甲種師範科を卒業。甲：甲種師範科。
選：選科。講：小学校講習科。

典拠資料は次のとおり。
［北海道］
①北海道師範：『東京音楽学校一覧』
［青森県］
①青森県師範：『東京音楽学校一覧』，『青森県師範学校一覧』(明治42年)[国会]
［岩手県］
①岩手県師範：『東京音楽学校一覧』，『岩手県師範学校一覧』(明治42年)[国会]
［宮城県］
①宮城県師範：『東京音楽学校一覧』，『宮城師範学校同窓会名簿』(昭和61年版)
［秋田県］
①秋田県師範：『東京音楽学校一覧』，秋田県師範学校編，発行『創立六十年』1936/1981復刻 第一書房 東京
②秋田県女子師範：『東京音楽学校一覧』
［山形県］
①山形県師範：『東京音楽学校一覧』，『山形大学教育学部同窓会会員名簿』(平成９年度)

②山形県女子師範：『東京音楽学校一覧』
［福島県］
①福島県師範：『東京音楽学校一覧』，福島大学教育学部百年史編集委員会編『福島大学教育学部百年史』福島大学教育学部同窓会吾峰会　福島　1974
［茨城県］
①茨城県師範：『東京音楽学校一覧』
②茨城県女子師範：『東京音楽学校一覧』，茨城県立水戸第二高等学校編，発行『水戸二高七十年史』1970
［栃木県］
①栃木県師範：『東京音楽学校一覧』
②栃木県女子師範：『東京音楽学校一覧』
［群馬県］
①群馬県第一師範：『東京音楽学校一覧』
②群馬県第二師範：『東京音楽学校一覧』
③群馬県女子師範：『東京音楽学校一覧』，『群馬県女子師範学校一覧』（明治43年）[国会]
［埼玉県］
①埼玉県師範：『東京音楽学校一覧』，百年史編集委員会編『百年史　埼玉大学教育学部』百年史刊行会　浦和　1976
②埼玉県女子師範：『東京音楽学校一覧』，百年史編集委員会編『百年史　埼玉大学教育学部』百年史刊行会　浦和　1976
［千葉県］
①千葉県師範：『東京音楽学校一覧』『千葉県師範学校一覧』（明治39年）[国会]
②千葉県女子師範：『東京音楽学校一覧』『千葉県女子師範学校一覧』（明治40年）[国会]
［東京府］
①青山師範：『東京音楽学校一覧』
②豊島師範：『東京音楽学校一覧』
③東京女子師範：『東京音楽学校一覧』
④東京高等師範：『東京音楽学校一覧』
⑤東京女子高等師範：『東京音楽学校一覧』
［神奈川県］
①神奈川県師範：『東京音楽学校一覧』
②神奈川県女子師範：『東京音楽学校一覧』
［山梨県］
①山梨県師範：『東京音楽学校一覧』，山梨県師範学校編，発行『創立六十周年記念誌』1935
［長野県］
①長野県師範：『東京音楽学校一覧』『信州大学教育学部九十年史』1965
②松本女子師範：『東京音楽学校一覧』『信州大学教育学部九十年史』1965
［新潟県］
①新潟師範：『東京音楽学校一覧』
②高田師範：『東京音楽学校一覧』
③長岡女子師範：『中等諸学校職員録』
［富山県］
①富山県師範：『東京音楽学校一覧』
［石川県］
①石川県師範：『東京音楽学校一覧』
［福井県］
①福井県師範：『東京音楽学校一覧』
［岐阜県］
①岐阜県師範：『東京音楽学校一覧』『岐阜県師範学校一覧』（明治42年）[国会]
②岐阜県女子師範：『東京音楽学校一覧』

［静岡県］
①静岡県師範：『東京音楽学校一覧』『庁府県学事職員録』『中等諸学校職員録』
②静岡県女子師範：『東京音楽学校一覧』『庁府県学事職員録』『中等諸学校職員録』
［愛知県］
①愛知県第一師範：『東京音楽学校一覧』
②愛知県第二師範：『東京音楽学校一覧』
③愛知県女子師範：『東京音楽学校一覧』
［三重県］
①三重県師範：『東京音楽学校一覧』，『三重県師範学校一覧』（明治44年）
②三重県女子師範：『中等諸学校職員録』
［滋賀県］
①滋賀県師範：『東京音楽学校一覧』滋賀県師範学校編，発行『滋賀県師範学校六十年史』1935／1981復刻 第一書房　東京
②滋賀県女子師範：『東京音楽学校一覧』
［京都府］
①京都府師範：『東京音楽学校一覧』，『京都府師範学校沿革史』1938
②京都府女子師範：『東京音楽学校一覧』
［大阪府］
①天王寺師範：『東京音楽学校一覧』『大阪府天王寺師範学校一覧』（明治36年）[国会]
②池田師範：『東京音楽学校一覧』
③大阪女子師範：『東京音楽学校一覧』
［兵庫県］
①御影師範：『東京音楽学校一覧』
②姫路師範：『東京音楽学校一覧』
③明石女子師範：『東京音楽学校一覧』
［奈良県］
①奈良県師範：『東京音楽学校一覧』，『奈良県師範学校一覧』（明治42年）[国会]，『奈良県師範学校五十年史』1940
②奈良女子師範：『東京音楽学校一覧』
③奈良女子高等師範：『東京音楽学校一覧』
［和歌山県］
①和歌山県師範：『東京音楽学校一覧』『和歌山県師範学校一覧』（明治29年）[国会]
［鳥取県］
①鳥取県師範：『東京音楽学校一覧』
［島根県］
①島根県師範：『東京音楽学校一覧』『島根県師範学校一覧』（明治44年）[国会]
②島根県女子師範：『東京音楽学校一覧』
［岡山県］
①岡山県師範：『東京音楽学校一覧』，『岡山師範（男子）卒業生名簿』1982
②岡山県女子師範：『東京音楽学校一覧』『庁府県学事職員録』『中等諸学校職員録』
［広島県］
①広島県師範：『東京音楽学校一覧』
②三原女子師範：『東京音楽学校一覧』
③広島高等師範：『東京音楽学校一覧』
［山口県］
①山口県師範：『東京音楽学校一覧』，『山口大学教育学部同窓会誌』1983
［徳島県］
①徳島県師範：『東京音楽学校一覧』，徳島大学教育学部同窓会編，発行『教学百年』1974
②徳島県女子師範：『東京音楽学校一覧』，徳島大学教育学部同窓会編，発行『教学百年』1974

［香川県］
①香川県師範：『東京音楽学校一覧』
［愛媛県］
①愛媛県師範：『東京音楽学校一覧』『愛媛県師範学校一覧』（明治33年）[国会]
［高知県］
①高知県師範：『東京音楽学校一覧』『高知県師範学校一覧』（明治39年）[国会]
［福岡県］
①福岡師範：『東京音楽学校一覧』，『福岡県福岡師範学校創立六十年史』1936
②小倉師範：『東京音楽学校一覧』
③福岡女子師範：『東京音楽学校一覧』『中等諸学校職員録』
［佐賀県］
①佐賀県師範：『東京音楽学校一覧』，佐賀県教育会編『佐賀県教育五十年史』中篇　1927
［長崎県］
①長崎県師範：『東京音楽学校一覧』
②長崎県女子師範：『東京音楽学校一覧』
［熊本県］
①熊本県師範：『東京音楽学校一覧』
②熊本県女子師範：『東京音楽学校一覧』
［大分県］
①大分県師範：『東京音楽学校一覧』『大分県師範学校一覧』（明治36年）[国会]
②大分県女子師範：『東京音楽学校一覧』
［宮崎県］
①宮崎県師範：『東京音楽学校一覧』『宮崎県師範学校一覧』（明治44年）[国会]
［鹿児島県］
①鹿児島県師範：『東京音楽学校一覧』
［沖縄県］
①沖縄県師範：『東京音楽学校一覧』沖縄県師範学校編，発行『沖縄県師範学校創立五十周年記念誌』1931
［その他］
①台湾師範：『東京音楽学校一覧』
②韓国漢城師範：『東京音楽学校一覧』

『東京音楽学校一覧』は東京芸術大学附属図書館所蔵。なお，『東京音楽学校一覧』は，音楽取調掛修業證状付与伝習生の明治36年以降の勤務校と，選科生，小学校講習科修了生の勤務校は掲載していない。『庁府県学事職員録』（明治34年，35年）と『中等諸学校職員録』（明治37年，39年，41年）は国立国会図書館所蔵マイクロフィルム使用。[国会]を記した資料は国立国会図書館所蔵マイクロフィルム使用。

後記：本稿は，富山第一銀行奨学財団の助成による研究成果の一部である。